

議長 会議を再開いたします。 (午後 2時10分)

々 これより本山議員の一般質問を行います。4番本山議員。

4番 本山議員 4番本山でございます。本日、最後の質問となりますが、よろしくお願いをいたします。川本町の呼称について、昨日の町長のテレビでの説明と本日の山陰中央新報の「こだま欄」での総務課長のコメントで、明確に川本町の呼び方について表明されました。大変すっきりいたしました。町民の皆様も納得していただけたものと思います。これからはこのように、町民向けに対外向けに情報発信に取り組んでいただきたいと思いますと思っております。

それでは、通告に従いまして質問をいたします。地域の住民が暮らしやすい住み続けたいと思える環境づくり。特に移動手段、地域交通の取り組み、そして治水対策で言われております、高齢住宅の建設等についてお聞きをいたします。地域の特性に沿ったまちづくりの枠組みが、弓市・因原・三原それぞれに形になりつつあるように思っております。因原地区は商業圏が充実し、町内だけでなく、他の日や町からも多くの人の流れを呼び込んでいます。弓市においては、医療・介護・福祉の強化の推進として、医療法人仁寿会加藤病院による新築移転計画が、いよいよ具現化してまいります。商業・学校・医療・行政を中心とした、川本の中心機能としての充実が図られています。三原地区においては、株式会社三協様に寄贈していただいた河津桜で600本の苗木の植栽が終わり、これから更に河津桜などの植栽により、公園構想も上がっております。それぞれの地域の特性が見えてきているように感じるわけであります。私が議員活動している中で、町民の皆様、特に高齢者の方からいただく声として、最近圧倒的に多いのが移動手段のことでございます。仁寿会川本加藤病院が高台に移転する話が出てからは、特に声が大きくなっております。第6次総合計画にも公共交通の充実が、基本計画に挙げられ、6つの重点プロジェクトを進める上でも、この公共交通抜きでは考えられない、基本の部分だと思っております。高齢者の外出の社会参加による健康の増進、加齢による心身の衰えの予防は、生きがいや生活の向上に繋がるのはもちろん、医療費が増加の一途をたどる中、町の財源にとっても重要な一つの課題だと考えます。令和2年に地域公共交通活性化再生法により、地域公共交通計画の策定が、市町村の努力義務となりました。これは地域にとって望ましい移送サービスの姿を明らかにするマスタープランの役割を果たすものだと思います。本町におきましては、5月17日に川本町地域公共交通協議会が設立されておるようでございます。この法定協議会が画期的なのは、すべての交通モードを対象として計画を策定し、事業を実施できるとともに、補助制度が計画と連動するなど、自治体の地域公共交通への関わりが一層反映できるものとなるからでございます。このような状況の中で、住民の活動や移動状況、助け合いの取り組みの活動実態を、十分に把握されているのか。

4 番
本山議員

活動の方向性や課題などが十分に共有できているのか。その中で、誰 1 人残さない交通網の確立が特に交通弱者の足の確保ができるのか、取り組みについてお聞きをいたします。次に、谷地区と瀬尻・久料谷地区の治水とまちづくりの連携計画も、整備方針、計画マスタープランができ上がり、事業スケジュールも加速化していくものと思います。地域づくりと一体となった治水対策が進めるわけでありますが、対象地域には高齢者が多くおられます。移転に伴い様々な思いがある中で、お聞きしますと、家の再建築に対する不安がある方も多くおられます。できれば、まちづくり構想にある町営住宅に入りたい、これも選択肢だと考えられる方もおられます。そこでお聞きしますが、住宅の建設をどのようにお考えなのか。どのタイミングで建設をしていくのか、お考えをお聞かせください。

次に、2 項目めでございます。三原地区旧残土処理場を活用した桜公園構想がございます。町の思いとしては何を最終的にとらえて、この整備をされるのか、お聞きをしたいと思います。次に、三協さんの更なる工場の拡大は、町にとっても大きな力となると考えますが、なかなか人が集まらない。求人その他、町として協力できる部分は多いと思いますが、どのように関わっていくおつもりか、お聞きいたします。以上、よろしく願いをいたします。

議 長

それでは、本山議員の質問のうち 1 項目めの「地域の求める環境づくりについて問う」に対する答弁をお願いします。番外伊藤まちづくり推進課長。

番外伊藤ま
ちづくり推
進課長

本山議員ご質問の 1 項目め「地域の求める環境づくりについて」お答えします。最初に、地域交通のあり方ですが、第 6 次総合計画の公共交通の充実を、本町交通対策の基本的な考え方としております。町外への地域間交通につきましても、関係市町村や県、バス事業者と連携して、行政負担の縮減と利便性の確保に配慮しながら、路線バスの維持を図ってまいります。一方で、町内の移動手段につきましても、詳細な利用及び需要調査を行い、各地域の特性や、通院・通学・通勤などの利用者それぞれのニーズを押さえながら、バスやタクシーなどを活用した、利便性・効率性の高い交通手段を検討したいと考えており、今年度策定する地域公共交通計画で、今後 5 年間の取り組みを具体化してまいります。特に公共交通を必要とする高齢者の車の免許を保有しておられない方などが、より利用しやすく持続可能なきめ細かい交通体系の実現を目指します。また、グリーンスローモビリティや自動運転などの次世代型交通の将来的な運行の可能性についても検討を始めていきます。通告書にありました運転免許を保持していない方の割合は、昨年度実施した生活交通実態調査の結果として、65 歳未満は 90%以上が運転免許を保有し、これらの世代が 65 歳以上になるに従って、いわゆる高齢者の運転免許保留保有率は 65%まで上昇するものと推計しています。次に、交通対策の補助制度についてです。本町では、民間による路線バスやタクシー運行に加え、町内におけるスクールバス及びデマンド型タクシーを運行しています。

番外伊藤ま
ちづくり推
進課長

公共交通に係る補助制度といたしましては、スクールバス乗車につきまして、幼児から高校生まだと、65歳以上で運転免許証を返納された方の料金を無料とする制度を設けております。また、民間が運行するバスカードの購入助成やタクシー利用に係る料金助成などの制度を設け、交通弱者への対策と交通空白地の削減を図っております。利用助成のあり方など再検討して、今年度策定する地域交通計画で方向性を整理したいと考えております。次に、治水対策と合わせた、高齢者の思いに即した公営住宅の建設についてです。3月に策定された、国土交通省江の川流域治水推進室による、治水とまちづくり連携計画に、瀬尻・久料谷、谷地区の整備方針が盛り込まれ、国・県による治水対策が加速するものと期待しております。町においては、こうしたタイミングをとらせ、まちづくりの柱の一つとなる住環境マスタープランとしての、住生活基本計画を今年度中に策定することとしています。策定にあたっては、町民の皆様、とりわけ高齢者が皆様の思いやニーズをしっかりと把握し、町の財政規律にも熟慮した上で、公営住宅や民間住宅支援など、高齢者の住まいの支援のあり方についても検討してまいります。

議 長

再質問ありますか。4番本山議員。

4番
本山議員

ありがとうございました。町民の移動手段の確保について、この川本町ではスクールバス・デマンドタクシー・タクシー助成など、いろいろ考えておられます。また、江津・美郷への代替バスの運行もしておられます。しかしながら見ておきますと、利用者が思うほどない。そういう点ではですね、いかに今考えられておられる、公共交通というものが、町民の皆様の利用に即していない、そういうところを反省する必要があると思います。今回、こうやって、地域交通の話をしようと思ったのはですね、先ほども言いましたけども、高齢者の皆さん、特に加藤病院が上に上がると言った途端にですね、本当にこれから私たちはどうやって、加藤病院に行けばいいんだと。この前、コロナワクチンを打ちに行ったときに雪が降ったと。行って帰るのに大変だったというような、本当に大変だという声を聞きました。そういう状況からですね、この地域交通を本気で考えていただきたい。そういう意味合いで今回質問をさせていただきます。ここの中でですね、今、デマンドタクシー・スクールバス・タクシー助成をされておりますけども、この中で一番利用度の高いものは、どれでしょう。

議 長

番外伊藤まちづくり推進課長。

番外伊藤ま
ちづくり推
進課長

利用度の高さという点でいきますとスクールバス、これは子どもたちも乗っておりますので、乗車数からいくと多いかと思っております。それぞれにつきましては、タクシー助成・デマンド助成・スクールバス、地域といえますか、あまりかぶったところがないような制度設計になっておりますので、

番外伊藤まちづくり推進課長 人数からいくとスクールバスではございますが、どの制度についても、一定の利用者があるものと考えております。具体的なちょっと人数につきましては登録者数等を把握しておりますが、ちょっと今ここで答えできないものになっております。

議 長 再質問ありますか。はい、4番本山議員。

4番 本山議員 私の認識ではですね、このデマンドタクシーの利用者が、何かだんだんと少なくなっておるんじゃないかというような、お話を聞いています。またタクシー助成は大変利用度が、利便性がいいので使いたいという方が増えておられるような、そういうところじゃないかなというふうに認識をしておるんですけどもここはですね、こういう制度もいいんですけども、一番大事なのはですね高齢者、例えば高齢者がですよ、アイスクリームが食べたい。アイスクリームを買って家で食べたいんですけども、買って帰る間に溶けてしまって食べれない、そういう状況がですね、今のこの状況では、多々あると思うんですよ。そういう細かいところですけどもね、そこまで対応できるかどうか分かりませんがそういうところの問題がこの今のデマンド、そしてタクシー助成等にもちょっと引っかけるところがあるのかな。町内の方においても歩いて行って、店まで行って、帰ってくる前までには、なかなかそういうものが買えないというようなところもあろうかと思えます。江津・美郷の代替バスでございますけども、これも利用度は、どうなんでしょうか。わかりますか。

議 長 番外伊藤まちづくり推進課長。

番外伊藤まちづくり推進課長 利用度でなかなか具体的な人数をここで申し上げることは難しいんですけども、江津線それから美郷線につきましても、昨年度の調査の中ではですね、高校生が大半を占めているということになっております。

議 長 再質問ありますか。4番本山議員。

4番 本山議員 多分ですね、一般の方の利用度は多分少ないと思います。特に美郷線に関しましては、相当な数が足りてないというふうな感じがしております。そういうところを全体的に見つめまして、最終的にはですね、この町民の移動手段の確保について、根本的には何を一番の基本にされていくおつもりなのか、お聞きいたします。

議 長 番外伊藤まちづくり推進課長。

番外伊藤ま 基本になるものはやはり住民、特に交通弱者と言われる方、この方たちの

ちづくり推
進課長 生活に即したものになるかどうかということだと考えております。今年度の策定の中ではですねしっかりそのあたりのニーズを把握したいと思っております。またこれ、交通対策だけではなくて、先ほどアイスクリームの買い物話でしたが、本当に目的が何なのか、実際そこにその方が行って、やらないと目的が果たせないのかということ。例えばその買い物であればですね今、宅配サービスといいますか、町内でもそういった宅配の事業者さんも出てきておられますので、そういった交通弱者と言われる方の利用目的、その辺もしっかり把握した上で、計画を策定していくことになると思います。あくまでやはり利用者さんが基本になるというふうに考えております。

議 長 再質問ありますか。はい、4番本山議員。

4番
本山議員 はい。多分、まちづくりの課長も多分これには相当な労力を使われると思います。これだけ労力を費やして作って良いものができたといたしましても使うのは、住民でございます。住民の皆さんが、この地域に住む人がどういう、地域でありたいか選択するのは最終的には、地域に住む人の考え方だけでございます。そこにはですね、やはり使う方、住民側にも相当な覚悟がいます。先ほどアイスクリームの話をしましたけど、何を望んでそこまで望むのかというような例で出したわけですが、やはり住民側にも、それ相当な覚悟が要りますし、少しは不便でも公共交通を使う。そして、少し少々高いけども町内の店で物を買う。そういうふうな意識の変化といいますか、そういうものがやはり求められる、行政側からしたらそういうものを求めていくという努力も必要なんじゃないかなと私は思うわけでございます。なかなかですね、その辺の認識をしていただくというのもなかなか難しいところではございますけども、そういう穴埋めをするためにですね、交通の街中に休めるところを作るとかですね。トイレを作るとか時刻表のこまめな見直しをしていく、このような行政がですね住民のために一生懸命やってるんだという信頼関係をですね、やっぱり構築することが、私は一番大事なことだと思います。ですから極端にすべてのものが充足できるというような公共交通はまずできないと思いますので、その中で住民の皆さんにサービスができる公共交通以外でのサービスができるものと、地域交通とうまくプラスしながら、この地域交通の計画を私は練っていただきたいと思いますが、今のお考えはどうでしょう。

議 長 番外伊藤まちづくり推進課長。

番外伊藤ま
ちづくり推
進課長 今の本山議員のご意見に対しまして、全く同感でございます。公共交通だけではなくて、暮らし全体を町民の方ですね暮らし全体を見て、どういったサービスができるのか、公共交通を中心に今言われたように、例えば待合室の話でありますとかそういったことも含めてですね、しっかりと考えてい

番外伊藤まちづくり推進課長 きたいと思っております。便の見直しにつきましてもですね議員ご指摘のありましたように、大きなバス・大きな路線についての利用者が少ないということも、私たちも感じているところでございます。そういったことも含めて交通計画の方で検討してまいりたいと思っております。

議 長 再質問ありますか。4番本山議員。

4番 本山議員 今もう一つですね、この住民の皆さんの意識の改革のためにですね、町ができること、どんなことがあるかということも一つ考えていただきたいなと思います。やはり、すべてが満足するようなことをまずできないと思いますので、その辺、お互いが理解をし合える、そういうものをそういう機会等、いろんな場所でですね作って、相互理解を深めていただきたいというところでございます。次にですね、谷地区と瀬尻・久料谷地区の治水対策等で、いろいろ今整備が進んでおるわけでございます。先ほど私がタイミングをとということでお聞きをいたしました。これは町の事業になると思いますので、高齢者の皆さんが1日でも早く落ち着いた状況を作っていただきたいというところでございます。この住宅のタイミングという意味では、どのようなお考えをお持ちでしょうか。

議 長 番外伊藤まちづくり推進課長。

番外伊藤まちづくり推進課長 今、宅防工事がこれから進んでいくということになると思います。また加速していくということで期待をしているというお話をさせていただきました。タイミングにつきましてはちょっとなかなか今ここでお答えできないんですけども、当然、今年度のまずは住生活基本計画、この中でできる限りタイミングも検討させていただきたい。ただ県の事業、国・県の事業になります宅防事業の進捗度合い、これに当然どういいますかリンクしてくるものだと思いますが、今回の計画の中でどの程度その辺りの宅地が整備される時期をですね検討できるかというところが、今のお答えになるかなと思っております。

議 長 再質問ありますか。4番本山議員。

4番 本山議員 もちろんですね着工の時期は今後の県、国のスケジュールによると思いますけども、できた宅防が完成したという時点において、皆さん方が例えば新しい家を建てていかれる、そのタイミングとあわせて、建てていただけるのか。早く入りたい、高齢者の方はですねまずは、早く安心をしたい、早く住めるところを見つけないといけないのが一番だろうと思います。ですから高齢者優先で、今、谷の水防対策委員会なども高齢者の皆さんが早く入れるような施策というのをお願いしたりをしておるわけでございますけども、そういう

4番
本山議員 意味合いで、この住宅建設を優先で進めていこうという気持ちがあるのかなのか、そこら辺を聞かせていただきたい。

議 長 番外伊藤まちづくり推進課長。

番外伊藤ま
ちづくり推
進課長 今回の宅防工事において住宅施策というのは非常に重要でありますし、優先的に進めていく事項だと思っております。人が住むためにも、住まいというのが必要になります。ただこの住宅のあり方につきましてはですね、公営住宅なのか、民間住宅支援なのか、どういったものかということも含めてですね、考え方としては住まいについては優先的ではあると思っておりますが、今この段階でですね具体的なお話がちょっとできないかなと思っております。

議 長 再質問ありますか。4番本山議員。

4番
本山議員 別に具体的な時期とか、そういうものを求めているわけではなくてですね、そういう気持ちを持っていただいているかということを知りたいです。

議 長 番外伊藤まちづくり推進課長。

番外伊藤ま
ちづくり推
進課長 住まいにつきまして非常に大事なことだと思っております。宅地を整備して、新たな土地ができて、人が住まないと意味がありませんので、最初の答弁でもありましたが当然、町全体ですね、財政規律も考えないといけません。本山議員言われる優先的でありますとか、重要であるかという、認識からすると、そういった方向で考えております。

議 長 再質問ありますか。4番本山議員。

4番
本山議員 それじゃこれはこれで終わらせていただきます。次、2項目めに入らせていただきます。

議 長 以上で、1項目めの「地域の求める環境づくりについて問う」の質問を終了いたします。

々 次に、2項目めの「誘致企業と本町の目指す取り組みを問う」に対する答弁をお願いいたします。
番外名原産業振興課長。

番外名原産
業振興課長 本山議員の2項目め「誘致企業と本町の目指す取り組みを問う」にお答えします。三原地区へ進出いただきました株式会社三協島根川本工場は、操業

番外名原産業振興課長 開始後4年を経過し、石川社長様には河津桜の苗木のご寄贈をはじめ、多額のご寄附もいただいております。河津桜公園整備につきましては、この地域の魅力化に貢献したいという石川社長様の思いに応え、また三原地区の中心に位置する南佐木残土処理場の有効活用が図れるよう検討を進めているところでございます。これまでに、ご寄贈いただいた計600本の河津桜を、町道三原古市線沿いに植栽いたしました。今後は、この植栽ゾーンに取り込む形で、河津桜をメインとした公園整備を行い、地域の方々の憩いの場、そして将来的には、観光客の呼び込みの場ともなるよう、景観形成を図ってまいりたいと考えております。次に、人材確保への支援でございますが、島根川本工場は、現在31名の従業員が雇用されております。本町へのUIターン者の採用も多く、雇用創出のみならず、定住人口の増加に対しても大きな恩恵を受けているところでございます。人材確保に対する支援への本町のこれまでの取り組みですが、主に企業説明会やUIターンフェアなどへの参加を斡旋し、就職希望者とのマッチングを支援してまいりました。また、県が例年実施している企業見学バスツアーの視察先として推薦し、島根中央高校の生徒や保護者、教職員が工場を訪問する機会も設けています。さらに、昨年度は県の企業人材確保支援サポート事業の対象企業として、県から指定され株式会社三協と、本町・県の人材確保コーディネーターで連携し、雇用環境の改善を図ってまいりました。今後も県の支援を受けながら、株式会社三協と本町が連携して人材確保に当たるとともに、コロナ禍により見合わせておられました将来的な工場の拡充、さらには増設を呼び込んでまいりたいと考えております。

議長 再質問ありますか。4番本山議員。

4番本山議員 今お聞きいたしましたところ、将来的には観光地を目指すというようなお答えをいただきました。将来を見通した計画を進めておられるのであれば、納得がいきますけれども、その計画、千本桜ぐらいになれば、大した景観になるかと思っておりますので、そういう思いがあるのは受け止めました。ただですね、なんで河津桜、三原にこれほど今植栽をしておるのに、盛り上がりがないんだろうか。川本町民全体にこういう機運が生まれておりますか、どう思われます。

議長 番外名原産業振興課長。

番外名原産業振興課長 全町的に機運が盛り上がっているかというお尋ねでございますけれども、確におっしゃるよう三原地域への河津桜への植栽という形ですので、三原の方々にとって見ればですね当然河津桜を植栽ということにつきましては、認識いただいておりますし、自治会の方ともですねいろいろこの公園整備についての意見交換会なり説明会でお邪魔しております。や

番外名原産
業振興課長 　　はり河津桜をメインとした公園をというところで望んでおられる面もござい
ますので、全町的に広げていくっていうことであればですね、この公園整備
を、また起点にですね、今後、機運を盛り上げていければなというふうに感
じております。

議　　長 　　再質問ありますか。4番本山議員。

4番
本山議員 　　私いつも思うんですけども、こう1ヶ所でされる事業というものが、もう
そこのところにもうすべてそこの地域だけのものになってしまっておるとい
うような気がするんですよ。昔、私は治水対策の時にお尋ねいたしましたけ
ども、治水対策が谷や久料谷地区だけの治水対策じゃないんだよと。そうじ
ゃなくて、町全体の治水対策として捉えていただかなければならないという
質問をしたことがございます。この河津桜にしても、三原が三原、植栽しと
るから三原の人たちだけが頑張ればいいというような問題ではなくてです
ね、町全体でやっぱり盛り上げていくような機運を作っていかないと、なか
なか、ここにさあ公園を作りますよ、それじゃ三原の人だけが行くんですか、
そうじゃないでしょ。この川本町全体、引いてはこの近隣の皆さん方に利用
していただきたいと思うのであれば、川本町の町内全体でですね、植栽に参
加してくださいとか、そういう盛り上げ方をね、ちょっとしていただきたい
というところがあるんですよ。ですから全体的な取り組みということを考えて
いただけないでしょうかね。

議　　長 　　番外野坂町長。

番外
野坂町長 　　議員ご指摘の、今の取り組みを全町的な展開というお尋ねであります。現
实的にはですね、この2年間というのはコロナがありましたので、植栽をや
りました時期というのもですね、現実的になかなかそういうお声掛けの仕方
ですね、そういうのが、まず物理的に難しかったという、こういう特殊事情
がありますということ、まず、ご理解いただければと思います。今のこの
植栽の取り組みの前段にあたってはですね、可能性調査としてですね、植栽
の可能性のある全町のエリアを、調査もかけております。その上で、もう一
つご理解いただきたいのはこの取り組みというのは、あくまで三協さんのご
寄附をいただいて、それから桜もいただいてですね、このご寄附があればこ
そという、そういう側面もありますので、まずは社長さんも当初進出なさっ
たときにですね、やはりこの工場周辺を広く地域の人に開放してですね、さ
らに憩いの場だけではなくて、町を広く町内外から訪れていただける人があ
ればという構想のもとに手がけておりますので、そこら辺は何といいますか、
社長さんのご意向もですね、その都度確認しながらという段階で今に至って
いると、そういう通常の何ていいますか、町が独自に公園整備をするですね。
町が直接的に公園整備するという、或いは他のもですね公共事業で橋をかけ

番外
野坂町長 たり、堤防作ったりというものとは少し違う側面の中でですね、この取り組みが成り立ってきているということは、ご理解いただければと思います。その上で、ご指摘のとおりですね、こうしてコロナもだんだん落ち着きかけております。実は三協の社長さんも、今度ですね「ええなあまつり」にですね、お出かけいただいて、みずからも取り組みの内容をですね、せっかくの機会だからというふうな思いをお持ちでもありますので、その上で議員がご指摘のようにですね、広くこれが三協さんの周辺もしくは三原地区だけではなくて、この本町全体にですね、町民の皆さんのご理解いただきながら、より広がるような取り組みというのはですね意識していきたいなど、このように考えております。

議 長 再質問ありますか。4番本山議員。

4番
本山議員 今の桜公園の進め方にいたしましても、本当に三協さんと緊密な話し合いができていんだらうか、というようなところもございます。先般も現場を、議員の皆さん方と一緒に見に行ったわけでございますけども、その時点でも、やっぱり三協さんの気持ちを酌むんであれば、やはり三協さんともう少し協議をきちっと進めて前に進めていかなければならない。今のやり方を見てますとね、三協さんが桜の苗木を送ってくださる、木をいただいた、そのプレッシャーが余りにも大きすぎるんじゃないですか。もうだからもう植栽しなければならぬ、こうしなければならぬというそっちの方ばかりに気を取られてですね、共同でやるというふうなちょっと考え方が、ちょっと、おろそかになってるんじゃないかなというような気がするんですが、その辺の認識はいかがですか。

議 長 番外名原産業振興課長。

番外名原産業振興課長 まず前段としまして公園整備の前にですね、令和3年度におきましては三原古市線の植樹の方を計画いたしておりましたので、こちらにつきましては、連絡を密にしてですね、どういったところに桜の苗木、いただいた苗木を植えていくかっていうところは随時打ち合わせをしながら進めていったところでございます。3月12日にはですね、植樹イベントの方を実施いたしまして、当然そこにはコロナ禍ではありましたが三協様をはじめですね、静岡からもいらっしゃいましたし、三協の従業員の方もいらっしゃいました。それから地元の方自治会の方々もですね、役員の方とかも出ていただきまして、植樹の方をしていただいております。全く協議をしてないってわけではございませんので、桜の公園計画につきましても、去年の秋にですね、町長とお邪魔して計画の概略については、内諾をいただいておりますし、公園でするのでやはり地元の方にですね愛される公園でないといけないというふうに思いもございますので、その辺はおっしゃるようになかなか三協さんとの打

番外名原産業振興課長 ち合わせが密でなかったというところであれば、我々もですね反省する面があるかと思しますので、そういったところまた真摯に受けとめまして、これからまた三協さんと連絡を密にとりまして、公園整備についてですね、協議の方進めていきたいと考えております。

議 長 再質問ありますか。4番本山議員。

4番
本山議員 やはりですね、ここを公園構想をそれ以上に観光地として、川本町の少ない観光地として今から育て上げていくんでしたら、やはり三協さん、そして地域、そして行政、本当に一体となって、これをですね、作っていかなければいけないというふうに思いますので、そここのところをきっちりやっていただきたいと思います。よろしく願いをいたします。次にですね、三協さんの、更なる工場の拡大ということでお話をさせていただきます。もちろんですね求人とかというのは三協さんの努力の部分もあろうかと思ます。そこには誘致した側の町の戦略といいますか、三協さんが大きくなったときの、この町の中での立ち位置、そういうものもいろいろ含めながらやっぱり戦略というものも、その当時はあったんじゃないかなと思います。単に誘致しただけではないと思います。そのおかげで、三協さんからはご寄附も多くいただきましたし、そして桜もいただいてそういう意味合いではですね三協さん自身の気持ちはこちらにある程度伝わってると思いますけれども、果たして、こちら側が三協さんに対して、どれほどの今、協力ができているのか。その部分、どのぐらいできてると思います。お聞きいたします。

議 長 番外名原産業振興課長。

番外名原産業振興課長 どれぐらいできてるかというお尋ねでございますけれども、なかなかその数値で今申し上げるのはちょっと私も難しいとは思っております。しかしながらですね、島根川本工場へは定期的ですね出向いてきまして、何かお困り事はないですかというような、意見交換をお話ししながらですね、打ち合わせの方を行っております。そういったことでですね、今回の夏まつり、先ほど町長も申しておりましたように、ええなあまつりの方にもぜひ協力したいというところですね、川本工場の方から本社の方に照会かけていただきまして、ご協力いただけるという形になっております。できるだけ私どももですね、三協さんのご要望にできるだけしたいと思っておりますので、寄り添って取り組んでいく、いきたいと考えております。

議 長 再質問ありますか。4番本山議員。

4番
本山議員 先ほど求人に対して意見とか、いろいろ協力しながらやっておると言われましたけれども、実際効果がないですね、あんまり。人数が34名ですか、

4 番
本山議員

それ以上、上がっていないというところもございます。やはりそこにはですね、何かこう足りないものが何かあるのかなという気がするんですよ。やはり、今は三協さんって三原にあるものであって、他の因原とか、この弓市の皆さん方に、どう思われておりますかね。もっと浸透してもいい感じがするんですけど、そういうところの認識の不足もですね、全体的に求人とか、その三協のイメージとかが、なかなか住民に伝わりにくい。すごい良い会社だということをもっとアピールできるような、施策を取っていただかないと、なかなかこれ以上、人が増えるというようなことも何かこう期待できないような気もするんですけども、その辺を考えなんかありませんか。

議 長

番外名原産業振興課長。

番外名原産
業振興課長

三協さんはもっと町民の方に浸透してもらえればというようなお尋ねでございますけれども、まず人材確保の課題といたしましては、やはり企業と地域住民との繋がりを深めるってことが、やはり企業に対する地域への評価を高めることが必要なのではないかとこのように考えております。コロナ禍ですななかなか思うような採用活動もできないような状況もございましたし、なかなかおっしゃる通りですね三協さん、窓も何もございませんので、外から建物だけ見えて人がなかなか見えにくい面もございます。こういったこともありまして先ほどご紹介いたしました、県の事業を活用しましてバスツアー等を行いましてですね、島根中央高校の学生さんとか保護者の方、教員の方も出向いて行って、工場見学の方をしていただいております。見られた方はですねやはり最先端の設備の中で、いろんな方が働いておられるんだということでもかなり感心して帰られて感想を述べておられました。こういった機会をですねやはりたくさん設けてですね、子どもたちにも工場見学していただいて、地域にこういう最先端の工場があるんだよってところ認識していただいて、将来的にはそこで働いてもらおうというような仕掛けがですね、できればいいなというふうにも考えております。以上です。

議 長

再質問ありますか。4 番本山議員。

4 番
本山議員

やはり三協さんを川本町の宝だというくらいの気持ちを持ってですね、みんな育てるといったらちょっと語弊があるかもしれませんがみんなで協力して、やっていかなければならない企業さんだというふうに思っております。本当にこの町をですね、暮らしやすい、住みやすい町にするためには、やはり雇用も大切でございます。川本に来れば、住みやすいし、働けるところもあるんだと、そういう地域になれば本当に良いなというふうに思っております。先ほど冒頭に言いましたけども、因原・三原そしてこの弓市、本当に今のこの枠組みがですね、うまく浸透していけば、本当に素晴らしいこの街になるという、気が私はしております。それに向かって力を合わせて、私

4番
本山議員 も行きたいと思いますので、行政の方もそれなりに努力をしていただきたい
というふうに思いますので、よろしく願いいたします。以上で終わります。

議 長 以上で2項目めの「誘致企業と本町の目指す取り組みを問う」の質問を終
了いたします。

々 これをもちまして、本山議員の一般質問を終了いたします。

々 以上をもって本日の議事日程はすべて終了いたしました。
(午後 2時55分)

この会議録は、川本町議会事務局長 中嶋 則行 が記載したもので、その内容におい

て、正確である旨を証するためここに署名をする。

川本町議会議長

川本町議会議員

川本町議会議員